

Street Children を救え

特定非営利活動法人広島フィリピン友好協会 理事長
広島ユネスコ協会国際部会 理事
横 佩 智 恵 (よこはぎ ともえ)



フィリピン・マニラ郊外トンド地区にあるスモーキーマウンテン。もう30年以上も前になるが、広島の大学に在学しているフィリピンの留学生と一緒に初めて訪れた。

その当時、テレビではスモーキーマウンテンの映像が流れていたが、それは日本では見かけることのない光景だった。小学生ぐらいの子どもたちが大人に混じってゴミの山の中からプラスチック製品や、缶などを拾っている……。テレビではなく自分の目で見て「いったいどういうことなのか？学校にも行かないで」と思った。そこで初めてストリート・チルドレンの存在を知った。それだけではなく、ストリート・ファミリーの存在も。

ストリート・チルドレンとは、広義の意味では“路上で生活をしている子どもたち”であるようだが、その一人一人の背景、置かれている環境は異なる。家族から離れて帰る家もなく路上で寝る子どもたち、昼の間だけ家族の生活費を稼ぐため路上で物売りなどをしている子どもたち、また親子兄弟姉妹全員で高架橋などの下で暮らしている子どもたちなど。

共通しているのは、どの子ども学校に行っていないということだ。フィリピンは、小学校、中学校までは義務教育で、公立学校は子どもたちに開かれていると聞いていたのに……。

一方、日本では殆ど全員の子どもたちが就学年齢に達すると学校に通うことが出来る。学校給食も完備されていて最低一日一食は確保されている。

子どもたちを取り巻く環境が、生まれた国の国状によって異なる現実はあるとは思いますが、せめても学ぶ機会は貧富の差はあっても公平にしたいもの。国連機関、UNICEF、UNESCO などが世界中の子どもたちへの教育の機会均等支援活動を展開しているが、路上で生活している子どもたちにはなかなか届かない。

私たちにできることは何か？を問いながら、初めてスモークーマウンテンを訪れて以来30有余年、いろいろな支援活動を続けてきた。

近年、世界経済のグローバル化で貧富の差は広がり、ストリート・チルドレン、ファミリーの数は減少するどころか増加傾向にあり、問題もますます複雑化してきている。

フィリピンのストリート・チルドレンの教育支援活動をミッションに、広島在住のフィリピンの人達の協力を得て、広島フィリピン友好協会を5年前に設立した。日本人だけではなく、“フィリピンの人たちと一緒に力を合わせてChallenge”することでより幅広い活動が出来ると。

設立以来、フィリピン・セブ市と協力して“Mobile School”の子どもたちへ文房具を送るなどの教育支援活動、ヨランダ台風支援、フィリピンに関するセミナー開催、留学生アセアンフェスティバル参加、昨年度は、JICA、JETRO など諸機構、企業等のご支援をいただいて「フィリピンビジネスセミナー」を開催することが出来た。



5年間の活動の結果、教育支援活動等の協会活動の継続、発展を目指して、特定非営利活動法人(NPO) 広島フィリピン友好協会として昨年12月20日に広島市により認可され、新たに活動을 続けて行くこととなりました。

現在、支援を続けてきた“Mobile School”は諸事情により閉鎖されており、再開する為には人的、金銭的、政治的など様々な問題に対処しなければならず、組織的に取り組むためには、組織強化と現地のパートナー団体等との協力が不可欠です。

日本では「読み、書き、そろばん」と言いますが、フィリピンのストリート・チルドレンの子どもたちがこれから生きていく最低限の“生きるための術、知恵”としての教育を受ける機会、場ができることを願ってこれからも活動を続けていくことが出来ればと思っています。

また、2015年1月、「2014年度広島ユネスコ協会活動奨励賞」を戴いたことを会員一同励みにして、その名に恥じないよう活動を続けていく所存です。有り難うございました。

